

# 私たちの「桜の家」

王 丹  
WANG DAN

時間が経つのは早いと思います。私は研修生として日本に来てからもう二年経ちました。思い出せばこの二年間はいろんな事がありました。その中で最も私の生活を有意義にしてくれたのが「桜の家」の創刊に参加できたことです。

日本に来たばかりの時、私たちにとって工場での仕事を覚えることのほかに日常生活を如何に楽しく過ごせるかが重要でした。当初は日本語もあまり話せなくて、生活にも慣れなくて、つまらない日でした。そんなある日に私たちは工場から「研修生の友」という本をもらいました。読んで見ると非常に分りやすく良い本で、この本を読んだことにより、みんなは自分たちで何かを作ったらどうだろうと話し合いして、新聞を作ろうと決めました。希望は私たちの研修生が桜のような日本でどこでもいて、そして皆は家族のようだと思います。だからタイトルは「桜の家」に決め、月刊という形でスタートしました。

初めて新聞を作ったのでいろんな試練が私たちの前に立ちはだかって、思ったより上手に進みませんでした。そんなことも言っていられず、一つずつ試練はクリアして行くしかありませんでした。その試練は資金の問題です。まず会社と相談し、一部を援助してもらいました。次にインターネット利用や「桜の家」ファンド会なども開催しました。この収入を加え、なんとかこの試練を乗り越えて、昨年2月に私たち

による念願である「桜の家」を発行することが出来ました。

初刊の「桜の家」の大半は皆の感想でした。内容は単調なもので色彩感にも欠けていました。それから1年が経ち、皆はいろんな失敗から学び、経験を積み、今の「桜の家」は本物の桜のように鮮やかになり、大分新聞らしくなりました。内容は感想ばかりではなく、ニュースや娯楽、日本語の勉強に関する内容も増え、様様分野に分けられています。「桜の家」から皆は新しいニュースや知識を知り、お互いの交流を深め、夢を語り、今や「桜の家」は皆の生活の一部になっています。こうやって「桜の家」は私たちの手により生れました。私たちの為の私たちによる「桜の家」ですから、もちろん皆は個々が編集者です。「桜の家」の編集をすることにより、各自の知識や想像力を豊かなものにしてくれたと思います。何より一層皆の団結力が強くなりました。

これが私たちの「桜の家」です。日本で生活、成長、そして明日へ希望が詰まっている「桜の家」です。数年後に読み返したらきっとあの時皆が力を合わせて頑張ったこと思い出します。いい思い出、そして私の人生の宝物になるでしょう。だから私の宝をもっと大きくする為にも、これからも皆とベストな「桜の家」を目指して頑張っていきます。